



綿毛のなくなったタンポポは、どうなるの

種を飛ばすのがタンポポのだいじな役目

タンポポは、朝の6時ごろから花を開き、みつで虫を集め、夕方、花を閉じます。虫たちにみつをあげるかわりに、おしべの花粉をめしべにつけてもらいます(注)。そして、種ができるまで、閉じた花は、地面にたおれています。5～6日して綿毛の準備ができたら、くきが立ち上がり、3～4日すると、いっせいに開き、真っ白い綿毛が丸く広がったタンポポになります。落下さんのような綿毛の先についた種は、風によって遠くへ運ばれていきます。そこで、芽を出したら、新しいタンポポが生まれてきます。

綿毛のなくなった後は、タンポポの種類によってちがう

綿毛のなくなったタンポポがどうなるかは、タンポポの種類によってちがってきます。昔から日本に生えていたタンポポは、子孫を残すための、種をばらまく役目は終わったので、暑い夏の間は、地上の葉やくきはかれ、根だけになります。すすしくなった秋に、また葉を出し、地面にはりついた形で、寒い冬をこし、春、新しい花をつけます。明治時代以後、外国から入ってきて、日本中に広がってしまったセイヨウタンポポは、1年中次々と花をつけ、どんどん広がっていきます。飛んでいった種もすぐ芽を出し、花をつけ、また種を飛ばします。

このように、じょうぶで、広がる力が強いセイヨウタンポポにおされて、今では、日本のタンポポは、町中などでは、ほとんど見られなくなりました。(監修・矢野 亮)
(注)セイヨウタンポポは、めしべに花粉がつかなくても種ができます。

